



Vol. 48

## CONTENTS

【コラム】日本技術士会と情報処理学会の連携について… 黒澤 兵夫

【解説】情報科教員のための教員免許更新講習（後）… 久野 靖

【解説】はじめてのプログラミングとつまずき… 岡本 雅子

## COLUMN



### 日本技術士会と情報処理学会の連携について



技術士は科学技術に関する技術的専門知識と高等の応用能力および豊富な実務経験を有し、公益を確保するため高い技術者倫理を備えた優れた技術者の育成を図ることを目的とした国家資格である。技術士は21の技術部門を広くカバーしているが、このうち情報分野に対応しているのが情報工学部門である。2014年には最高裁から地裁・高裁の長官に対し、専門訴訟の際には技術士を使うようにとの通達も出され、技術士の活動範囲も広がっている。

2001年に技術士制度は国際整合するエンジニア資格(PE, Professional Engineer)として技術者倫理、資質向上(CPD, Continuing Professional Development)等について大幅に改定され、工学教育との連携(JABEE)も強化された。しかし、技術士制度の社会的認知が十分でないため、2014年12月末の時点で情報工学部門の技術士は1,950名、2014年度技術士第二次試験における情報工学部門合格者は85名(JABEE認定プログラム修了者3名)にとどまっている。社会における情報系専門職人材の重要性が増す中で、より多くのJABEE認定プログラム修了者が技術士を志すことが望まれる。

日本技術士会は、2014年8月に情報処理学会との間で「高度な情報技術者の育成・可視化および情報系プロフェッショナルコミュニティの形成に関する覚書」を締結した。覚書に基づき行われている主な連携を以下に示す。このうち、①項と②項については、技術士法第45条(守秘義務)を遵守しつつ業務を遂行している。

#### ① CITP への協力(企業認定、個人認証)

情報処理学会が開始した認定情報技術者制度(CITP, Certified IT Professional)に技術士会も審査員や制度検討委員会の委員として協力している。企業認定は、社内で独自の資格制度を持つ大手SIerを主な対象とするアクレディテーションの仕組みである。個人認証は、技術者個人が情報処理学会に直接申請し審査するもので、中小企業やフリーランスの技術者の利用を想定している。

#### ② 技術士試験委員

情報処理学会へ情報工学部門の試験委員などを依頼している。

#### ③ CPD コラボレーション

情報処理学会へ技術士・情報工学部門のCPD企画の一部を依頼している。将来的にはCITPのCPDとの相互連携も図る予定である。

現在、技術士・情報工学と情報処理技術者試験(高度試験)合格者の相互活用に関する検討が、科学技術・学術審議会技術士分科会制度検討特別委員会相互活用WGで行われている。これを推進するために、情報処理学会が策定したカリキュラム標準J07を参照して基礎・CS, CE, SE, IS, IT(情報基盤)について技術士一次試験および二次試験に対応するBOK(知識体系, Body of Knowledge)の案がとりまとめられた。技術士・情報工学、情報処理技術者試験・高度試験、CITPの間で資格制度の相互活用が図られるようになれば、日本における情報系プロフェッショナルコミュニティが形成され、世界に向けた積極的な発信が可能になることが期待される。

黒澤兵夫(TAKE 国際技術士研究所, 技術士(情報工学・総合技術監理))

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno